USB MO ディスクドライブ

MO-C1300U2 シリーズ

ユーザーズマニュアル

はじめに...................... 3　1

セットアップ.................5　2

本製品の使いかた.............9　3

MOディスクのフォーマット..... 13　4

付録......................... 21　5

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク........ ⚠注意 に続く説明文は､製品の取り扱いにあたって特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合､身体や製品に損傷を与える恐れがあります。

次の動作マーク.... 次へ に続くページは､次にどこのページへ進めば良いかを記しています。

文中の用語表記

・本書では､Microsoft社 Windows Millennium EditionをWindowsMeと表記しています。
・本書では､Microsoft社 Windows98 Second EditionをWindows98SEと表記しています。

■ 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。

■ 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■ 本製品は一般的なオフィスや家庭のOA機器としてお使いください。万一､一般OA機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合､弊社はいかなる責任も負いかねますので､あらかじめご了承ください。

・医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど､高い安全性が要求される用途には使用しないでください。

・一般OA機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときは､ご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。

■ 本製品は、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。また、弊社は、本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

■ 本製品のうち、外国為替および外国貿易法の規定により戦略物資等（または役務）に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可（または役務取引許可）が必要です。

■ 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

■ 弊社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、弊社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。

■ 本製品に隠れた瑕疵があった場合、無償にて当該瑕疵を修補し、または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。

目 次

1 はじめに 3

特長 3

各部の名称 4

2 セットアップ 5

セットアップのながれ 5

Windows 搭載パソコン 5

Macintosh 5

Windows 搭載パソコンでのセットアップ手順 7

Macintosh でのセットアップ手順 8

3 本製品の使いかた 9

使用時の注意 9

Windows 搭載パソコンと Macintosh に共通の注意 9

Macintosh だけに関する注意 10

MO ディスクの挿入 10

MO ディスクの取り出し 10

MO ディスクが取り出せないとき 11

MO ディスクを書き込み禁止にするとき 11

本製品の取り外しかた 12

WindowsXP/2000 12

WindowsMe/98SE/98、Macintosh 12

4 MO ディスクのフォーマット 13

フォーマット時の注意 13

Windows 搭載パソコンでのフォーマット 13

MO フォーマットに関する注意 13

MO フォーマットの起動と終了 15
フォーマット手順 15
Mac OS 9 でのフォーマット 16
Mac OS X 10.0.4 でのフォーマット 17
Mac OS X 10.1 以降でのフォーマット 19

5 付録 21

MO ディスク間のコピー（WindowsMe/98SE/98） 21
制限事項 21
コピー手順 21
MO ディスク内のファイルの削除（WindowsMe/98SE/98） 23
制限事項 23
削除手順 23
セキュリティツールパーソナル for GIGAMO について 25
セキュリティツールパーソナル for GIGAMO とは 25
注意事項 25
動作環境 25
インストール 26
使いかた 26
画像や音楽を楽しむ（WindowsXP/2000/Me/98SE） 27
画像データを写真注文する 28
ユーティリティのアンインストール（Windows のみ） 29
メディア ID について 29
メディア ID とは 29
メディア ID ドライバのインストール 29
メディア ID 対応 MO ディスクへの保存 30
困ったときは 31
動作環境 34
消費電力 34

1 はじめに

本製品を使用する前に知っておいていただきたいことを説明しています。

特長

● メディアID付きMOディスクに対応

メディアID付きMOディスクを使用することで、ホームページなどで配信されている音楽・映像データなど、著作権を保護したまま保存することができます。【P29】

●Windows・Macintosh両対応

本製品は以下の環境で使用できます。

DOS/V機(OADG仕様)/PC98-NXシリーズ

WindowsXP/2000/Me(Millennium Edition)/98SE(Second Edition)/98

Macintoshシリーズ/iMacシリーズ/iBookシリーズ/PowerBookシリーズ

Mac OS 9.0.4以降/Mac OS X 10.0.4以降

● 縦置き・横置き両対応

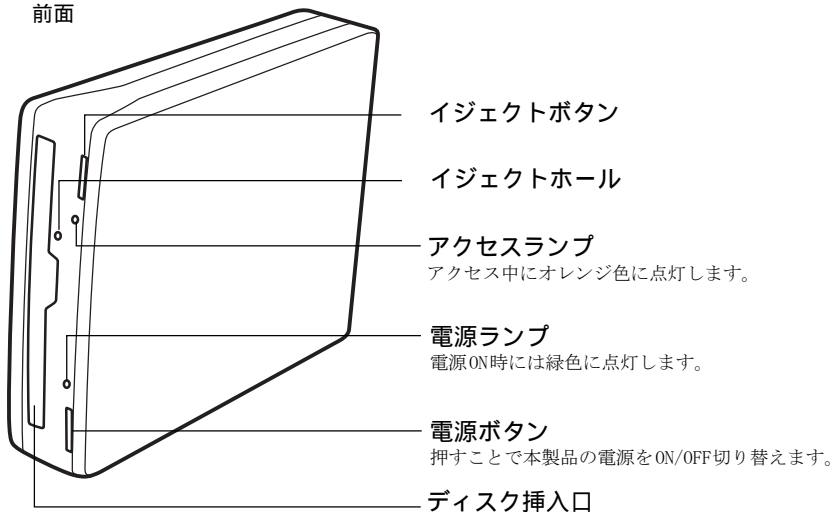
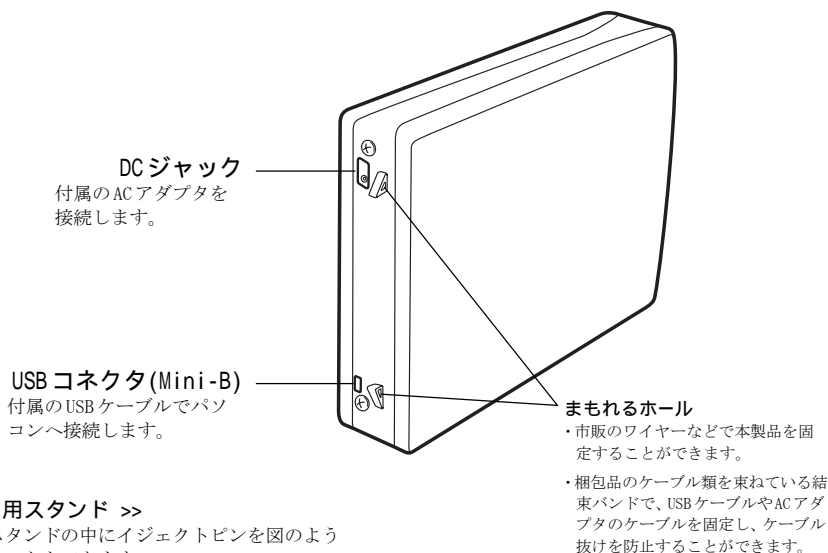
本製品は縦置きの向きでも横置きの向きでも使用できます。【別紙「はじめにお読みください」】

● USBコネクタ(シリーズA)に接続可能

パソコンやUSBハブのUSBコネクタ(シリーズA)に接続できます。

※ USBコネクタが装備されていないDOS/V機を使用している場合は、弊社製USBインターフェース(別売)を使用してください。

各部の名称

● 前面

● 背面

<< 縦置き用スタンド >>

縦置き用スタンドの中にイジェクトピンを図のように保管することもできます。

付属品の確認は別紙「はじめにお読みください」を参照してください。

2 セットアップ

本製品のセットアップ手順を説明しています。

セットアップのながれ

Windows 搭載パソコン

パソコンの電源スイッチをONにする

付属のユーティリティCD(CD-ROM)をパソコンのCD・DVDドライブにセットする

「簡単セットアップ」が起動したら、画面の指示に従って操作する
【別紙「はじめにお読みください」】

Macintosh

メモ 詳しい手順は、P8を参照してください。

パソコンの電源スイッチをONにする

本製品にACアダプタとUSBケーブルを接続する

パソコンにUSBケーブルを接続する

● CyberTrio-NXがインストールされているPC98-NXシリーズでは、CyberTrio-NXをアドバンストモード以外のモードで使用していると、Windowsの設定が変更できないことがあります。パソコン本体のマニュアルを参照して必ずアドバンストモードに変更してください。

● Windows98(Second Editionを除く)を使用しているときは、次の確認を行ってください。
① [マイコンピュータ]アイコンを右クリックします。
②メニューが表示されたら、[プロパティ]をクリックします。
③ [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
④[ユニバーサル シリアル バス コントローラ]の下に表示されているデバイス名を確認します。

※ Windows98 System updateは、マイクロソフト社のホームページ(http://windowsupdate.microsoft.com/)からダウンロードできます。

● WindowsXPをお使いの場合、USB2.0インターフェースを搭載していない環境(USB1.1インターフェース環境)で、USB2.0対応製品を接続すると、「高速USBデバイスが高速でないUSBハブに接続されています。」と、警告メッセージが表示されます。USB2.0インターフェースに接続することで、メッセージは表示されなくなります。

Windows搭載パソコンでのセットアップ手順

付属のユーティリティ「簡単セットアップ」の指示に従ってセットアップを行います。詳しい手順は、別紙「はじめにお読みください」を参照してください。

● **本製品のユーティリティがインストールされると、[プログラム]フォルダに[MOユーティリティ]フォルダが追加され、次のユーティリティが登録されます。**

・ MOフォーマット【P15参照】
・ MOコピー【P21参照】
・ ダストシュート【P23参照】
・ アンインストーラ【P29参照】

※「MOコピー」と「ダストシュート」は、WindowsMe/98SE/98用のユーティリティです。WindowsXP/2000ではインストールされません。

● **本製品のドライバがインストールされると、[デバイス　マネージャ]に次のデバイスが追加されます。**

使用OS	追加場所	追加デバイス名
WindowsMe/98SE/98	ユニバーサル シリアル バス コントローラ	BUFFALO USB-MO
	ディスクドライブ	BUFFALO MO-C1300U2
	SCSIコントローラ	BUFFALO USB-MO
WindowsXP/2000	USB (Universal Serial Bus) コントローラ	USB大容量記憶装置デバイス
	ディスクドライブ	BUFFALO MO-C1300U2 USB Device
	記憶域ボリューム	汎用ボリューム

[デバイス　マネージャ]は次の方法で表示できます。

WindowsMe/98SE/98
[マイ コンピュータ]アイコンを右クリック→[プロパティ]をクリック→[デバイス マネージャ]をクリック

WindowsXP
[スタート]をクリック→[マイコンピュータ]を右クリック→[管理]をクリック→[デバイス マネージャ]をクリック

Windows2000
[マイ コンピュータ]アイコンを右クリック→[管理]をクリック→[デバイス　マネージャ]をクリック

Macintoshでのセットアップ手順

Macintoshに本製品をセットアップします。セットアップは、本製品をパソコンに接続するだけです。次の手順でパソコンに接続してください。

1 パソコンの電源スイッチをONにします。

2 付属のACアダプタを本製品のDCジャックとコンセントに接続します。

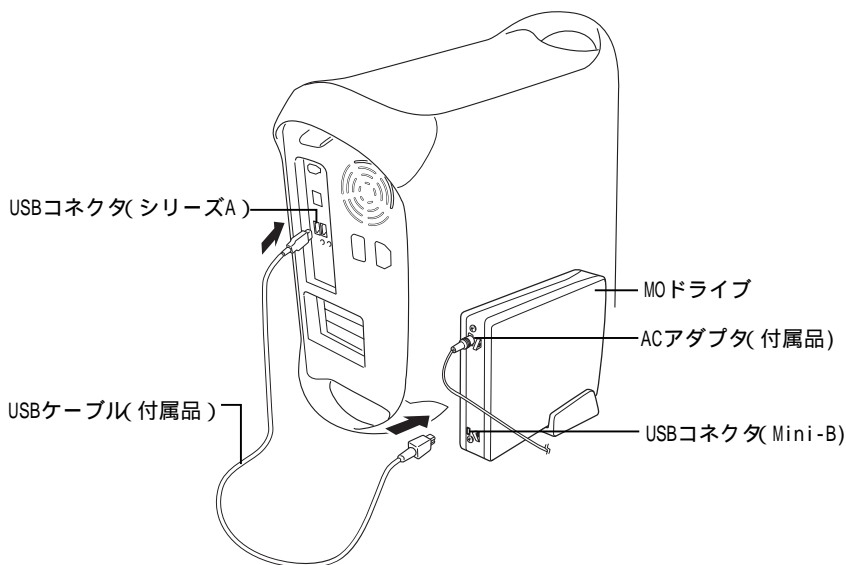
3 付属のUSBケーブルを本製品のUSBコネクタ(Mini-B)に接続します。

USBケーブルの2つのコネクタは、それぞれ形状が異なります。形状をよく確認して接続してください。

<USBケーブルのコネクタ形状>

シリーズA
(パソコン側に接続)

Mini-B
(本製品に接続)

4 パソコンのUSBコネクタ(シリーズA)にUSBケーブルを接続します。

以上で本製品のセットアップは完了です。

3 本製品の使いかた

使用時の注意

Windows搭載パソコンとMacintoshに共通の注意

● **MOディスクのフォーマット(初期化)について**
MOディスクは、使用する前にフォーマットする必要があります。【P13】

● **パソコン本体と周辺機器のマニュアルも必ず参照してください。**

● **本製品はホットプラグに対応しています。**
本製品やパソコンの電源スイッチがONのときでもUSBケーブルを抜き差しできます。
アクセスランプが点灯または点滅しているときは、絶対にUSB機器(本製品含む)からUSBケーブルを抜き差ししないでください。MOディスク内のデータが破損するおそれがあります。

● **USBケーブルを抜くときは**
・本製品は必ずP12に記載の手順で取り外してください。
・USBケーブルを抜く前に本製品から必ずMOディスクを取り出してください。

● **本製品からOSを起動(ブート)することはできません。**

● **パソコン本体の省電力モードを無効にしてください。**
サスペンド機能、レジューム機能、スリープ機能などは使用しないでください。MOディスクが認識できなくなることがあります。また、パソコン本体に本製品を接続していると、省電力モードに移行できないことがあります。

● **MOディスクにラベルを貼るときは、指定の位置からはみ出さないようにしてください。**
本製品内でラベルがはがれると、MOディスクが取り出せなくなることがあります。
取り出せなくなったときは無理に取り出そうとせず、そのまま弊社修理センターまで修理をご依頼ください。【別紙「はじめにお読みください」】

● **本製品の接続直後にパソコンからアクセスすると、アクセスエラーが発生することがあります。この場合、数秒待ってから再度アクセスしてください。**
接続直後は、本製品の準備ができていないためアクセスエラーが発生することがあります。

次のページへ続く

Macintoshだけに関する注意

● **DOSフォーマットのMOディスクについて**

次の場合、DOSフォーマットのMOディスクを本製品にセットすると、Mac OSに標準に付属しているフォーマッタが起動します。その場合は、[取り出し]をクリックしてMOディスクを取り出してください。

・540MBを超える容量のMOディスクを挿入した

DOSフォーマットの640MBのMOディスクは、Mac OSでは使用できません。

※DOSフォーマットのMOディスクの場合は、128MB/230MB/540MBが使用できます。

・File Exchangeが無効になっている

File Exchangeの設定が無効になっていると、DOSフォーマットのMOディスクは使用できません。

※File Exchangeは[アップルメニュー]－[コントロールパネル]－[File Exchange]で設定できます。

DOSフォーマットのMOディスクを使用するには、[File Exchange]の[PC Exchange]タブ内のチェックボックスが3箇所すべてチェックされている必要があります。

● **Mac OSを終了するときは**

お使いのパソコンによっては、Mac OSを終了してもMOディスクが自動的に排出されないことがあります。Mac OSを終了させる前に本製品から必ずMOディスクを取り出してください。

● **カードリーダーと併用する場合**

パソコンを起動(再起動)するときは、必ずカードリーダーからメディア(スマートメディアやコンパクトフラッシュなど)を取り出した状態で行ってください。

MOディスクの挿入

MOディスクのラベル面を左に向け、ディスク挿入口に挿入します。
正しく挿入されると、アクセスランプが6～7秒間点滅します。

⚠注意 **パソコンからMOディスクへのアクセスは、アクセスランプが消灯しているときに行ってください。点灯または点滅しているときは、MOディスクにアクセスできません。**

MOディスクの取り出し

＜Windows搭載パソコンの場合＞

本製品のアクセスランプが消灯していることを確認し、イジェクトボタンを押します。MOディスクが2～3cm出てきたら手で取り出します。

＜Macintoshの場合＞

デスクトップにあるMOディスクのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップすれば、MOディスクが排出されます。本製品のイジェクトボタンは通常使用しません。MOディスクが2～3cm出てきたら手で取り出します。

⚠注意 **・アクセスランプが点灯または点滅しているときは、絶対にイジェクトボタンを押さないでください。MOディスク内のデータが破損するおそれがあります。**

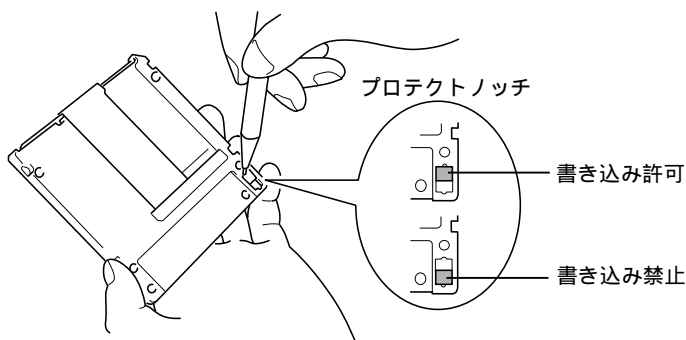
・電源ランプが点灯していないときは、イジェクトボタンを押してもMOディスクは排出されません。パソコンの電源スイッチをOFFにする前に、本製品からMOディスクを取り出しておいてください。MOディスクを取り出せないときは、「MOディスクが取り出せないとき」【P11】を参照して、強制的にMOディスクを取り出してください。

MOディスクが取り出せないとき

電源ランプが消灯しているときは、イジェクトボタンを押してもMOディスクを排出できません。その場合は、付属のイジェクトピンをイジェクトホールに差し込み、強制的にMOディスクを排出してください。

⚠注意 **イジェクトピンを使用するときは、本製品をパソコンから取り外してから行ってください。**

MOディスクを書き込み禁止にするとき

MOディスクに記録したデータを誤って消去してしまわないように、MOディスクへの書き込みを禁止できます。ボールペンなどを使って、MOディスクの背面にある「プロテクトノッチ」を書き込み禁止の位置に移動させてください。
再度データを書き込むときは、プロテクトノッチを書き込み許可の位置に移動させます。

本製品の取り外しかた

パソコンの電源スイッチがONのときは、次の手順で本製品を取り外します。

メモ **パソコンの電源スイッチがOFFの時は、そのまま取り外せます。**

⚠注意 **本製品を取り外す前に、必ず本製品からMOディスクを取り出してください。****【P10「MOディスクの取り出し」】**

WindowsXP/2000

⚠注意 **必ず次の手順に従って取り外してください。次の操作を行わずに本製品を取り外すと、エラーメッセージが表示されます。**

1 **本製品からMOディスクを取り出します。**

2 **タスクバー(タスクトレイ)に表示されているアイコンをクリックします。**

3 **取り外し(または停止)のメニュー項目をクリックします。**

WindowsXP:[USB大容量記憶装置デバイス-ドライブを安全に取り外します]
Windows2000:[USB大容量記憶装置デバイス-ドライブを停止します]

4 **「USB大容量記憶装置デバイスは安全に取り外すことができます」と表示されたら、[OK]をクリックします。**

5 **本製品を取り外します。**

WindowsMe/98SE/98、Macintosh

本製品からMOディスクを取り出した後、パソコンから本製品を取り外します。

4 MOディスクのフォーマット

本製品にセットしたMOディスクをフォーマットする方法を説明します。
※フォーマットとは、MOディスクなどの記憶メディアをパソコンで使用できるように処理（初期化）することです。

フォーマット時の注意

他のアプリケーション(エクスプローラなど)が起動しているときは終了してください。

● **MOディスクに記載されている容量は、1MB＝$1{,}000^2$ byteで計算されています。**
ただし、Windows上でフォーマットするときやプロパティでMOディスクの容量を確認するときは、1MB＝$1{,}024^2$ byteで計算されるため、表示される容量が異なります。

● **MOディスクによっては、フォーマットに数十分かかるものがあります。**
本製品の動作が停止しているように思われても、アクセスランプが点灯または点滅している間はフォーマットしています。そのままフォーマットが終わるまで待ってください。

Windows搭載パソコンでのフォーマット

Windowsには標準でフォーマッタが添付されていますが、異なるOS間でMOディスクを共有して使用する場合に互換性による問題が生じることがあります。MOディスクをフォーマットするときは、インストールされたフォーマッタ「MOフォーマット」を使用してください。
ここでは「MOフォーマット」の使いかたや使用上の注意について説明しています。

MOフォーマットに関する注意

● **MOフォーマットを使用すると、MOディスク内のデータは全て消去されます。大切なデータを必ずバックアップしてからフォーマットしてください。**

● **MOフォーマットではパーティションを作成できません。また、リムーバブルメディア以外(ハードディスクなど)のフォーマットもできません。**

● **本製品以外でのMOフォーマットの使用は、弊社では保証しておりません。**

● **FAT32フォーマットされたディスクは、WindowsMe、Windows98SE/98、Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C)、WindowsXP/2000でのみ使用できます。**

● **MOフォーマットの起動中は、エクスプローラや[マイ コンピュータ]からMOディスクの内容を見ないでください。**
見ようとすると、「ファイルシステムエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOフォーマットを終了し、再度エクスプローラや[マイ コンピュータ]からMOディスクの内容を見てください。

次のページへ続く

● WindowsXP/2000をお使いの方へ

- WindowsXP/2000のフォーマット機能でフォーマットすれば、NTFS形式でMOディスクをフォーマットできますが、MOディスクを想定したフォーマット形式でないため、FAT16またはFAT32でフォーマットすることをおすすめします。
- MOフォーマットでは、NTFSのフォーマットはできません。
- MOフォーマットでフォーマットされたMOディスクをWindowsXP/2000のフォーマット機能で再フォーマットする場合、いったんNTFS形式でフォーマットしてから希望のフォーマット形式でフォーマットしてください。
- NTFS形式フォーマットのMOディスクをWindowsXP/2000で使用すると、そのMOディスクはWindowsXP/2000でしか読み書きできなくなります。
- NTFS形式フォーマットのMOディスクを書込み禁止にした場合、書き込みだけでなく読み出しもできません。
- Ver.6.10以前のバージョン(＊)のAplix社製「WinCDR」(CD－R/RWライティングソフトウェア)がインストールされている環境では、MOフォーマッタが正常に動作しません。株式会社アプリックスのホームページ(http://www.aplix.co.jp/)から、最新ドライバ(aplix2k.sys)をダウンロードし、インストールしてください。

  ＊:WinCDRを起動し、メニューから、[ヘルプ]-[バージョン情報]を選択することにより確認できます。

MO フォーマットの起動と終了

- **起動方法･･･**[スタート]－[(すべての)プログラム]－[BUFFALO]―[MOユーティリティ]－[MOフォーマット]を選択してください。
- **終了方法･･･**MOフォーマットの[閉じる]をクリックしてください。

フォーマット手順

次の手順でMOディスクをフォーマットします。

⚠注意
・フォーマットすると、MOディスク内のデータはすべて消去されます。フォーマットする前に、消去してもよいデータか必ず確認してください。
・フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチを一切操作しないでください。
・MOフォーマットを起動する前に、本製品をパソコンに接続しておいてください。
・誤って他のMOドライブを操作してしまわないために、MOドライブは1台だけ接続することをおすすめします。

1 **フォーマットしたいMOディスクを本製品に挿入し、MOフォーマットを起動します。**
【P15「MOフォーマットの起動と終了」】

2

MOフォーマット
フォーマットするドライブ(V)
0:1:0 XXXXXX XXXXXXXX XXXX 217MB
フォーマット方法
標準(D)
（ディスクの管理領域のみ初期化します。）
完全(T)
（物理フォーマットを行います。数分～数十分かかります。）
オプション
フォーマット形式 FAT16
ボリュームラベル(L)
ボリュームラベルなし(N)
ディスクチェック(R) 開始(S) 閉じる(C)

ここをクリックして[バージョン情報]を選択すると、MOフォーマットのバージョン情報が表示されます。

① フォーマットするMOドライブ（本製品）を選択します。

② フォーマット方法を選択します。

③ フォーマット形式を選択します。

④ 必要に応じてボリュームラベルを入力します（最大半角英字11文字）。

⑤ [開始] をクリックします。

・ドライブ情報･･････････････････････ 0:1:0 XXXXXXX XXXXXXXX XXXX 230MB
<ホストアダプタ番号>:<ターゲットID>:<LUN番号>
MOドライブの名称　MOディスクの容量

・フォーマット方法･･･････････････[標準]: 論理フォーマットのみ行います(通常はこちらを選択します)。
[完全]: 物理フォーマットを行い、その後に論理フォーマットを行います。

・フォーマット形式･･････････････ [FAT16]と[FAT32]が選択できます。
※FAT32フォーマットされたMOディスクは、WindowsMe/98SE/98、Windows95(4.00.950 B/4.00.950 C)、WindowsXP/2000でのみ使用できます。

・ディスクチェック･･･････････････表示内容を更新します。MOフォーマットを起動した後にMOディスクを挿入した場合

次のページへ続く

フォーマット方法で[完全]を選択している場合

「物理フォーマットは数分から数十分を要します。(以下略)」というメッセージが表示されます。物理フォーマットしてもよければ、[はい]をクリックします。

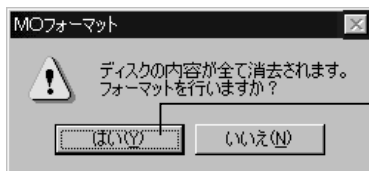
物理フォーマット中は経過時間が表示されます。

⚠注意 お使いの環境によっては、経過時間の表示が進まないことがあります。本製品のアクセスランプが点灯していれば物理フォーマットは動作していますので、完了のメッセージが表示されるまでお待ちください。

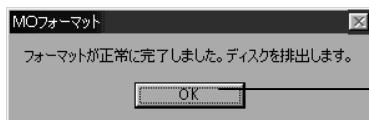
3

MOフォーマット

ディスクの内容が全て消去されます。
フォーマットを行いますか？

はい(Y)　いいえ(N)

[はい] をクリックします。

⚠注意 フォーマット中はマウスやキーボード、電源スイッチ、リセットスイッチ、USBケーブルの操作を一切行わないでください。

4

MOディスクが排出されます。

以上でフォーマットは完了です。

Mac OS 9でのフォーマット

Mac OS 9におけるフォーマット手順です。

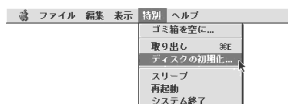
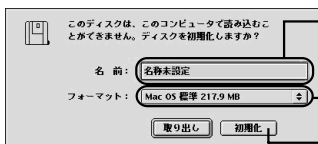
Mac OS X以降の手順は、次項をお読みください。

1 **フォーマットしたいMOディスクを本製品に挿入します。**

未フォーマットのMOディスクや、540MBを超える容量のDOSフォーマットMOディスクを挿入した場合は、フォーマッタが自動的に起動します。P17の手順3以降に従って操作してください。

2 **MOディスクのアイコンが反転表示になっていることを確認し、[特別]－[ディスクの初期化...]を選択します。**

次のページへ続く

3

① 必要に応じてMOディスクの名前を入力します。
② フォーマット形式を選択します。(*)
③ [初期化] をクリックします。

MOディスクがフォーマットされます。

＊選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。
Mac OS標準・・・・・・・・・・・・・Mac OS8.1よりも前のシステムでも使用できます。
(ボリュームラベル:最大半角英数字27文字/全角13文字まで)
Mac OS拡張・・・・・・・・・・・・・Mac OS8.1よりも前のシステムでは使用できません。
(ボリュームラベル:最大半角英数字27文字/全角13文字まで)
DOS・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・使用しないでください。
Universal Disk Format・・使用しないでください。

以上でフォーマットは完了です。

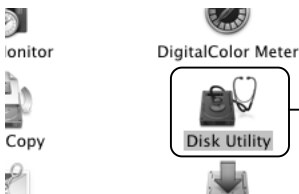
Mac OS X 10.0.4でのフォーマット

Mac OS Xの「Disk Utility」でフォーマットします。本項はMac OS X 10.0.4の手順です。
Mac OS X 10.1以降の手順は、次項をお読みください。

⚠注意 MOディスクをMac OS 9、Mac OS Xで併用する場合は、Mac OS 9でディスクをフォーマットしてください。

1 **デスクトップの[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[Applications]フォルダの中の[Utilities]フォルダを開きます。**

3

4 **フォーマットするMOメディアを挿入します。**

次のページへ続く

5

① [Drive Setup]をクリックします。

② フォーマットするディスクをクリックします。

③ フォーマットするディスクの情報を確認します。ディスクの情報はメディアによって異なります。

6

① ［パーティション］タブをクリックします。

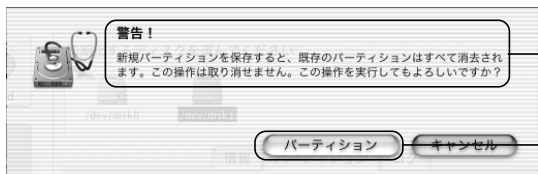
② MOディスクに名前をつける場合はここに入力します。

③ フォーマット形式を選択します。

④ ［パーティション］をクリックします。

メモ **選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。**

Mac OS 標準:Mac OS 8.1よりも前のシステムで使用できます。
Mac OS 拡張:Mac OS 8.1よりも前のシステムでは使用できません。
Unixファイルシステム:使用しないでください。

7

① メッセージを読みます。

② ［パーティション］をクリックします。

MOディスクがフォーマットされます。フォーマットが終わったら「Disk Utility」は終了してください。

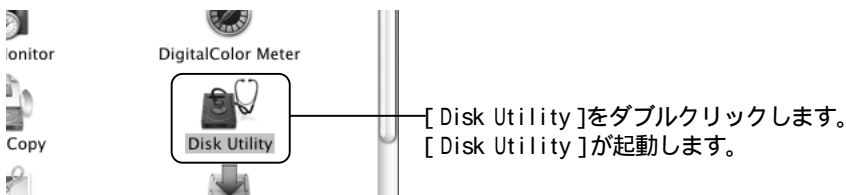
Mac OS X 10.1以降でのフォーマット

Mac OS Xの「Disk Utility」でフォーマットします。本項はMac OS X 10.1以降の手順です。
Mac OS X 10.0.4の手順は、前項をお読みください。

⚠注意 MOディスクをMac OS 9、Mac OS Xで併用する場合は、Mac OS 9でディスクをフォーマットしてください。

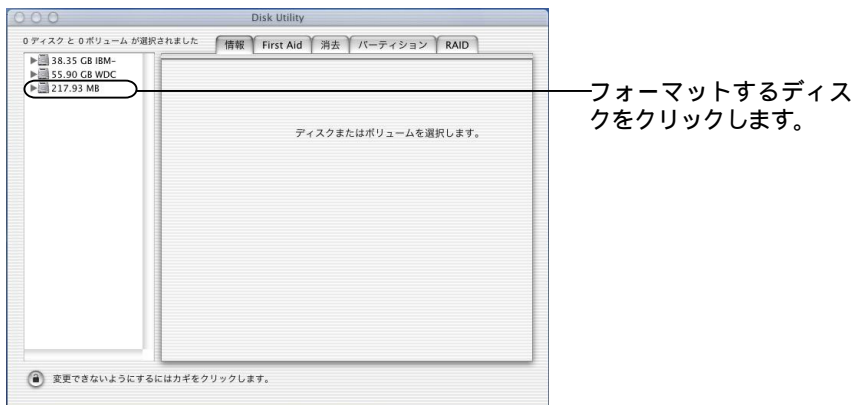
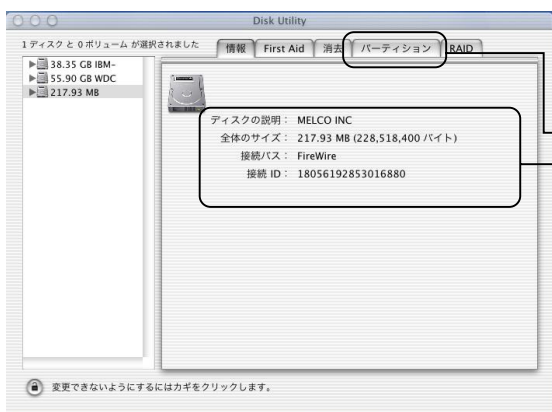
1 **デスクトップの[Macintosh HD]アイコンをダブルクリックします。**

2 **[Applications]フォルダの中の[Utilities]フォルダを開きます。**

3

4 **フォーマットするMOメディアを挿入します。**

5

次のページへ続く

6

① **フォーマットするディスクの情報を確認します。ディスクの情報は挿入したディスクによって異なります。**

② **［パーティション］タブをクリックします。**

7

① **MOディスクに名前をつける場合はここに入力します。**

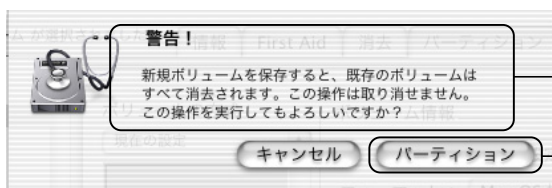
② **フォーマット形式を選択します。**

③ **□をクリックし、チェックをはずします。**

④ **［OK］をクリックします。**

メモ **選択可能なフォーマット形式は次のとおりです。**

Mac OS 標準：Mac OS 8.1よりも前のシステムで使用できます。
Mac OS 拡張：Mac OS 8.1よりも前のシステムでは使用できません。
Unixファイルシステム：使用しないでください。

8

① **メッセージを読みます。**

② **［パーティション］をクリックします。**

MOディスクがフォーマットされます。フォーマットが終わったら「Disk Utility」は終了してください。

5 付録

付属ユーティリティ、困ったときの対処方法、本製品の仕様についてここでは説明しています。

MOディスク間のコピー(WindowsMe/98SE/98)

本製品付属の「MOコピー」を使用すれば、1台のMOドライブで、MOディスク間のコピーが簡単にできます。

・MOコピーは、他のアプリケーション(エクスプローラなど)をすべて終了してから操作してください。
・誤ってコピー元のMOディスクを上書きしないよう、コピー元のMOディスクは書き込み禁止にしておくことをおすすめします。【P11】

制限事項

● コピーは同じ容量のMOディスク間でだけ行えます。
コピー元とコピー先のMOディスクの容量が異なる場合はコピーできません。
例)・コピーできる
640MBのMOディスク→640MBのMOディスク
・コピーできない
230MBのMOディスク→640MBのMOディスク
メモ **Windows標準のディスクコピー機能は、MOディスク間のコピーには対応していません。**

● ハードディスクドライブを経由してデータをコピーするため、コピーするMOディスクの容量以上の空き容量が1台のハードディスクに必要です。

● ファイルフォーマットがFAT16形式のMOディスクを使用している場合にだけ、高速でコピーできます。

● MOコピーの起動中は、エクスプローラや[マイ コンピュータ]からMOディスクの内容を見ないでください。
見ようとすると、「ファイルシステムエラーです」というエラーメッセージが表示されます。その場合はMOコピーを終了し、再度エクスプローラや[マイ コンピュータ]からMOディスクの内容を見てください。

● 本製品以外でのMOコピーの使用は、弊社では保証しておりません。

● 「MOコピー」はWindowsMe/98SE/98用です。WindowsXP/2000にはインストールできません(対応していません)。

コピー手順

1 **[スタート]－[プログラム]－[BUFFALO]－[MOユーティリティ]－[MOコピー]を選択します。**

2

① コピーに使用するMOドライブ(本製品)を選択します。

② [開始]をクリックします。

次のページへ続く

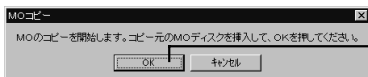
5 付録

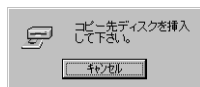
メモ **パーシャルコピー機能について**

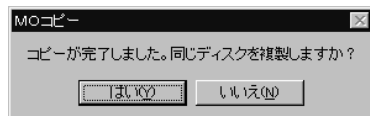
[パーシャルコピー機能を使用する]のチェックマーク(✓)を付けた状態(初期状態)で[開始]をクリックすると、ファイルデータだけがコピーされます。そのため、コピーにかかる時間が短くなります。
チェックマークを外した場合、コピー元のMOディスク内にあるすべての情報がコピーされます。

パーシャルコピー機能は、次のMOディスクをコピー元としたときに使用できます。
・本製品付属の「MOフォーマット」でFAT16形式フォーマットしたMOディスク
次のMOディスクをコピー元にした場合、パーシャルコピーはできませんので、チェックマークは外してください。
・「MOフォーマット」以外のフォーマッタでフォーマットされたMOディスク
・FAT16形式以外のフォーマット形式(FAT32やNTFSなど)のMOディスク
・Macintoshフォーマット(HFSなど)のMOディスク

3 **コピー元のMOディスクを本製品にセットします。**

4 MOコピー
MOのコピーを開始します。コピー元のMOディスクを挿入して、OKを押してください。
OK　キャンセル

[OK] をクリックします。

5 **コピー先のMOディスクを本製品にセットします。**

自動的にMOディスクが検出され、ファイルがコピーされます。

6

同じ内容をさらに別のMOディスクにコピーするときは[はい]をクリックします。MOコピーを終了するときは[いいえ]をクリックします。

以上でコピーは完了です。

MOディスク内のファイルの削除(WindowsMe/98SE/98)

本製品付属の「ダストシュート」を使用すれば、MOディスク内のファイルを完全に削除できます。ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティやDOSのUndeleteコマンドでも復旧できないため、機密データの削除に最適です。

メモ Windows上の操作で削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティやDOSのUndeleteコマンドで復旧できることがあります。

制限事項

● **ダストシュートで削除したファイルは、ファイル復旧ユーティリティやDOSのUndeleteコマンドでは復旧できません。**
必要なデータは絶対にダストシュートでは削除しないでください。

● **ダストシュートはファイルフォーマットがFAT16/32形式のMOディスクの場合にだけ使用できます。**

● **フォルダを削除することはできません。**

● **ダストシュートで削除できるのはMOディスク内のファイルだけです。**
ハードディスクドライブなど他のメディア内のファイルは削除できません。

● **ダストシュートによるデータの削除後もファイル名の痕跡だけは残ります。**
ファイルの実体は残りません。

● **本製品以外でのダストシュートの使用は、弊社では保証しておりません。**

● **「ダストシュート」はWindowsMe/98SE/98用です。WindowsXP/2000にはインストールできません(対応していません)。**

削除手順

1 **[スタート]－[プログラム]－[BUFFALO]－[MOユーティリティ]－[ダストシュート]を選択します。**

デスクトップ画面上の[ダストシュート]アイコンをダブルクリックしても起動できます。

2 **削除したいファイルの入ったMOディスクを本製品に挿入します。**

3 **削除するファイルをダストシュートの画面にドラッグ＆ドロップします。**

[参照]をクリックして、削除するファイルを選択することもできます。

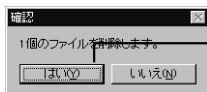
次のページへ続く

4

① 削除するファイルを選択して反転表示にします。

② [削除開始] をクリックします。

複数のファイルを削除するときは、[全選択]をクリックしてすべてのファイルを選択してから[削除開始]をクリックします。また、<Shift>キーまたは<Ctrl>キーを押しながらマウスをクリックして、複数のファイルを選択することもできます。

5

[はい] をクリックします。

ファイルが削除されます。

6

さらに他のファイルを削除するときは[いいえ]を、ダストシュートを終了するときは[はい]をクリックします。

以上でファイルの削除は完了です。

メモ 上記の手順以外にも、次の方法でダストシュートによるファイルの削除ができます。

※次の方法の場合、削除するファイルが下の方の階層にあると、同時に複数のファイルを削除できないことがあります。その場合は、複数回に分けてファイルを削除してください。

＜方法1＞

①エクスプローラや[マイ コンピュータ]でMOディスクの内容を表示し、削除したいファイルを右クリックします。
②表示されたメニューから[送る]－[ダストシュート]を選択します。
③「..個のファイルを削除します」と表示されたら、[はい]をクリックします。
④「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。

＜方法2＞

①デスクトップ画面上の[ダストシュート]アイコンに、MOディスク内の削除したいファイルをドラッグ＆ドロップします。
②「..個のファイルを削除します」と表示されたら、[はい]をクリックします。
③「指定されたファイルの削除が終了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。

セキュリティツールパーソナルfor GIGAMOについて

本製品には、1.3GBのMOディスク専用のセキュリティソフト「セキュリティツールパーソナルfor GIGAMO」が添付されています。ここでは「セキュリティツールパーソナルfor GIGAMO」の説明をします。

セキュリティツールパーソナルfor GIGAMO とは

セキュリティツールパーソナルとは、1.3GBのMO専用のセキュリティソフトです。MOディスクにパスワードを設定し、読み書きを制限することができるセキュリティディスクを作成できます。また、セキュリティディスクは、セキュリティ対応のMOドライブでしか読み書きできません。そのため、セキュリティに対応していないMOドライブからの読み書きを防止できます。

注意事項

- **本ソフトは1.3GBのMOディスクを使用している場合にのみお使い頂けます。1.3GB以外(128MB、230MB、540MB、640MB)のMOディスクを使用している場合にはお使いになれません。**
- **セキュリティツールパーソナルfor GIGAMOでセキュリティディスクにした(パスワードを設定した)MOディスクは元に戻すことはできません。**
- **本製品以外のMOドライブでセキュリティディスクを読み書きするには、セキュリティ対応のMOドライブとセキュリティを解除するためのソフトウェアが必要です。セキュリティに対応していないMOドライブをお使いの場合やセキュリティを解除するソフトウェアがない場合には読み書きできません。お使いのMOドライブがセキュリティに対応しているかは、MOドライブの取り扱い説明書をご確認ください。**

動作環境

対応機種　DOS/V機、PC98-NXシリーズ
対応OS(※)　WindowsXP/2000/Me(Millennium Edition)/98SE(Second Edition)/98
CPU　Intel Pentium 133MHz以上
メモリ　32MB以上
ハードディスクの空き容量　120MB以上の空き容量を持つハードディスク
ディスプレイ　800×600ドット以上、HighColor(16bit)以上

※ Microsoft Internet Explorer5.0以上がインストールされていること。

5

付録

インストール

セキュリティツールパーソナルfor GIGAMOをインストールする場合は、次の手順でインストールしてください。

1 **付属のユーティリティCDをCD-ROMドライブにセットします。**

簡単セットアップが起動します。
※起動しないときは、ユーティリティCD内の「Easysetup.exe」ファイルをダブルクリックしてください。

2 **簡単セットアップメニューから、[セキュリティツールパーソナルのインストール]を選択して、[開始]をクリックします。**

以降は画面の指示に従ってインストールしてください。

⚠注意 **インストール手順はセキュリティツールパーソナルfor GIGAMO のマニュアルにも記載されていますが、本書の手順で行ってください。セキュリティツールパーソナルfor GIGAMOのマニュアルの手順ではインストールできません。**

使いかた

使いかたは、セキュリティツールパーソナルfor GIGAMOのマニュアルまたはヘルプを参照してください。セキュリティツールパーソナルfor GIGAMOをインストールした後、以下の方法で参照できます。

● **マニュアルの参照方法**

[スタート]－[(すべての)プログラム]－[セキュリティツールパーソナルfor GIGAMO]－[セキュリティツールパーソナルfor GIGAMO マニュアル]を選択します。

● **ヘルプの参照方法**

[スタート]－[(すべての)プログラム]－[セキュリティツールパーソナルfor GIGAMO]－[セキュリティツールパーソナルfor GIGAMOヘルプ]を選択します。

画像や音楽を楽しむ(WindowsXP/2000/Me/98SE)

本製品に付属のコニカ サウンドピクチャーディスクは、お試し版のためサポート対象外となります。弊社およびコニカミノルタ社へのお問い合わせは受け付けておりません。あらかじめご了承ください。

本製品付属の「コニカ サウンドピクチャーディスクお試し版」を使用すれば、次のことを楽しむことができます。

・画像を、BGM付きスライドショーで表示する。
　※サウンド再生ソフトのないPCではBGMは再生できません。
・画像を一覧で表示する。
・画像をe-メールする。
・画像を加工する。

メモ　インストールするには、簡単セットアップから[コニカ サウンドピクチャーディスクお試し版のインストール]を選択し、[開始]をクリックしてください。使いかたについては、画面に表示されるメッセージに従ってください。

※「インターネットで注文する」を利用するには、コニカ オンラインラボ工房をインストールしておく必要があります。インストールしていない場合、[すすむ]をクリックすると、「コニカオンラインラボ工房が見つかりませんでした」と表示されます。

●ソフトウエア動作環境

パソコン	DOS/V機(OADG仕様)、NEC PC98-NXシリーズ・PC-9821/9801シリーズ
OS	WindowsXP/2000/Me/98SE
CPU	Pentium MMX200MHz以上を推奨
メモリ	64MB以上を推奨
ハードディスク	最低限150MB以上の空き容量で動作可能(ただし、300MB以上の空き容量を推奨)。
ディスプレイ	SVGA(800X600)以上、32,000色以上
サウンド	Windows WSS1.0/2.0互換のサウンドカード
必要な周辺機器	CD-ROM、スピーカー
ソフトウェア	インターネットエクスプローラー4.01 sp2以上がインストールされていること MP3プレイヤーソフト(Windows Media Player 7.1など)がインストールされていること

・メール送信する場合:メール送信可能なプロバイダに加入していること。

●コニカサウンドピクチャーディスクに関するその他のご注意、免責事項

1. スライドショーの保存及び呼び出し機能
　保存したスライドショーは、ご使用のパソコンでのみ呼び出すことができます。また、MOからの画像を使ったスライドショーを呼び出し再生する場合、そのMOが挿入されていることが必要です。
2. 画像データの保存及び呼び出し機能
　1)本ソフトウエアにて選択した画像データまたは加工編集した画像データを任意の場所に保存する場合、保存されるファイル形式は、JPEG形式のみとなります。
　2)本ソフトウエア上で呼び出すことが可能な画像ファイルは、本ソフトウエア上で呼び出すことが可能が画像ファイルは、JPEGファイル形式のみとなります。その他のファイル形式の画像を呼び出すことはできません。
3. 印刷機能
　1)本ソフトウエア上で選択した画像データを、お客様がお持ちプリンタなどで出力する場合、印刷後の印刷領域、プリント品質は、お持ちのプリンタユーティリティの設定に依存します。
　2)お客様がお持ちのプリンタ機種によっては、ユーティリティ上の設定通りに印刷できない場合があります。
　3)MOなどの中の画像から、より高画質のプリントをお求めになる場合、コニカオンラインラボでのインターネットプリント注文をお薦めします。高画質の銀塩写真プリントができます。
4. ソフトウエアのバージョンアップ
　本ソフトウエアについては、今後バージョンアップする可能性もあり、スマートバージョンアップ機能(旧バージョンのアンインストールなしにバージョンアップする機能)が搭載されておりますが、万が一、前記のスマートバージョンアップができない場合は、旧バージョンをアンインストールした後に本ディスクをセットし、インストールを行ってください。
5. その他
　本ソフトウエアを使用した結果、パソコンへ影響が発生した場合でも弊社は一切の責任を負わないものとします。

画像データを写真注文する

本製品に付属のコニカ オンラインラボ工房は、オンラインラボサポートセンターにてサポートを行います。

【オンラインラボサポートセンター】
電話番号:0120-201-990
E-mail:info@konica-lab.net
ホームページ: https://www.konica-lab.net/

本製品付属の「コニカ オンラインラボ工房」を使用すれば、次のことを楽しむことができます。

・そのままプリント
お客さまがお手持ちのデジタル画像を使って、高画質かつ安価な銀塩写真プリント「そのままプリント」を注文することができます。

・ポストカード＆手作りプリント
多彩なテンプレートデザインとデジタル画像を組み合わせて、オリジナルなポストカードやカレンダーを作ることができます。

・オンラインアルバムへ保管
お客さまがお手持ちのデジタル画像を「コニカオンラインラボ」の「オンラインアルバムサービス」に保管することができます。

メモ **インストールするには、簡単セットアップから[コニカ オンラインラボ工房のインストール]を選択し、[開始]をクリックしてください。使いかたについては、画面に表示されるメッセージに従ってください。**

●ソフトウエア動作環境

OS	Windows 95/98/Me, Windows NT4.0 SP3以上, Windows2000/XP
CPU	Pentium以上(Pentium120MHz以上推奨)
メモリ	32MB以上(64MB以上推奨)
ハードディスク	120MB以上の空き容量を持つハードディスク
ディスプレイ	SVGA(800×600)以上、32,000色以上

・ネットプリント注文、画像保管する場合:インターネット接続環境にあること。

ユーティリティのアンインストール(Windowsのみ)

本製品付属のユーティリティが不要になったときは、次の手順でアンインストールしてください。

1 **[スタート]－[(すべての)プログラム]－[BUFFALO]－[MOユーティリティ]－「アンインストール」の順に選択します。**

2 **以降は画面の指示に従って操作します。**

メディアIDについて

本製品はメディアID付きMOディスクに対応しています。ここではメディアIDについて説明します。

⚠注意 **MacOSでは、メディアIDに対応していません。**

メディアIDとは

固有の番号(メディアID)付きのMOディスクを使用することで、ホームページなどで配信されている音楽・映像データなど、著作権を保護したまま保存する機能です(メディアIDが付いていないMOディスクでは、著作権保護されたデータを保存することはできません)。
またメディアID付きMOディスクは、著作権に関係の無いデータも従来通り保存することができます。

メディアID付きMOディスクには、MOdマークがついています。

詳しくは、弊社ホームページ(http://buffalo.melcoinc.co.jp/pd/mediaid/index.html)のメディアIDについての解説ページを参照ください。

メディアIDドライバのインストール

メディアID付きMOディスクを使用して、著作権が保護してあるデータを保存するには、あらかじめメディアIDのドライバをインストールする必要があります。次の手順でインストールしてください。

1 **付属のユーティリティCDをCD-ROMドライブにセットします。**

簡単セットアップが起動します。
※起動しないときは、ユーティリティCD内の「Easysetup.exe」ファイルをダブルクリックしてください。

2 **簡単セットアップメニューから、[メディアIDドライバのインストール]を選択して、[開始]をクリックします。**

以降は画面の指示に従ってインストールしてください。

以上でインストールは完了です。

メディアID対応MOディスクへの保存

メディアIDに対応したソフトウェアを使用して保存します。ここではWindows Media Player 7を例に説明します。Windows Media Player 7は、Microsoft社のホームページから無償ダウンロードできます。

メモ MOディスクに保存したいデータ(音楽など)をホームページからハードディスクにダウンロードしておいてください。ダウンロードはホームページの指示に従ってライセンスの発行・支払い手続きを行ってください。

1 **メディアID付きMOディスク(フォーマット済み)を本製品にセットします。**

2 **Windows Medeia Player 7を起動します。**

※起動する前にMOディスクを必ず本製品にセットしてください。

3 **[ポータブル デバイス]をクリックします。**

4 **[デバイス上の音楽]から本製品(MOドライブ)を選択します。**

5 **[コピーする音楽]からコピーしたい項目をクリックし、チェックマークをつけます。**

6 **[音楽のコピー]をクリックします。**

※MOディスクへコピーできる回数、コピーしたMOディスクから再生できる期間などは、データ元の販売条件によって異なります。
※データ元の販売条件によってはメディアID付きMOディスクでもコピーできないことがあります。

以上でMOディスクへの保存は完了です。

困ったときは

本製品が認識されない（ドライブアイコンが表示されない）

ACアダプタ、USBケーブルが本製品やパソコンに正しく接続されているか確認してください。

MOディスクに書き込めない

MOディスクのプロテクトノッチが書き込み禁止になっていないか確認してください。プロテクトノッチを書き込み許可の位置にしてください。

アクセス時に「ドライブの準備ができていません」というメッセージが表示される

MOディスクが正しく本製品に挿入されているか確認してください。
MOディスクの挿入後、アクセスランプが点灯または点滅している間はドライブは準備中です。アクセスランプが消灯してから操作を行ってください。

MOディスクが取り出せない

電源ランプが消灯しているときは、イジェクトボタン押してもMOディスクは排出されません。
Macintoshの場合は、MacOS終了時に自動でMOディスクが排出されますが、機種によっては排出されないことがあります。「MOディスクが取り出せないとき」【P11】を参照して、強制的にMOディスクを取り出してください。

空き容量はあるがMOディスクにファイルをコピーできない

FAT16形式でフォーマットされたMOディスクの場合、ルートディレクトリに記録できるファイルの数には上限があります(ロングファイル名のファイルがない場合に最大512個)。
そのため、MOディスクに空き容量があるにもかかわらずファイルがコピーできない場合は、ルートディレクトリにあるファイルを1つ削除してフォルダを作成してください。その後、そのフォルダ内にファイルをコピーしてください。

特定のソフトウェアで本製品が使用できない

パソコンに標準搭載されているドライブ専用に作られたソフトウェア(※)上で、本製品を使用できないことがあります。
その場合はパソコンに標準搭載のドライブ(ハードディスクなど)を使用するか、他のソフトウェアを使用してください。

※ソフトウェアの仕様はソフトウェアメーカ(プリインストールソフトではパソコンメーカの場合があります)にご確認ください。

Macintosh で MO ディスクをセットしてもすぐに排出される

メディアを入れたままのカードリーダー(弊社製MCRなど)と併用した場合、本製品に未フォーマットのMOディスクを挿入するとすぐに排出され、MOディスクをフォーマットできません。
カードリーダー内のメディアを取り出してからフォーマットしてください。

簡単セットアップを完了しても MO ドライブのアイコンが表示されない

WindowsMe/98SE/98
ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
別紙「はじめにお読みください」に記載の手順に従って簡単セットアップでドライバを再度インストールしてください。

WindowsXP/2000
USBケーブルが接続されていない可能性があります。USBの接続を確認してください。

WindowsXPでの書き込み速度が遅い

本製品をWindowsXP搭載パソコンに接続すると、書き込みキャッシュ(*)が無効になります。WindowsXPで本製品の性能を発揮するには、次の手順で書き込みキャッシュを有効に変更してください。

*** ドライブのキャッシュとパソコンのメモリを使用して書き込み時の処理速度を向上させる機能です。**

*** 出荷時設定では有効になっています。また、WindowsXP以外のOSでは、無効に切り替わることはありません。**

① [スタート]をクリックします。
② 表示されたメニューから、[マイコンピュータ]を右クリックします。
③ [管理]をクリックします。
④ [デバイスマネージャ]をクリックします。
⑤ [ディスクドライブ]をダブルクリックします。
⑥ [ユニットドライブ名]をダブルクリックします。
ユニットドライブ名は製品によって異なります。
⑦ [ポリシー]をクリックします。
⑧ [パフォーマンスのために最適化する]をチェックします。
⑨ [ディスクの書き込みキャッシュを有効にする]をチェックします。
⑩ [OK]をクリックします。
以上の手順で書き込みキャッシュは有効になります。

本製品を接続したら画面全体が青くなり何も操作できなくなった(WindowsMe)

WindowsMeでは、簡単セットアップでドライバをインストールする前に本製品を接続するとシステムが停止することがあります。このようなときは、USBケーブルを抜きパソコンの電源をOFFにしてください。続いて別紙「はじめにお読みください」に記載の手順に従って簡単セットアップでドライバをインストールしてください。

UHB-S4(弊社製 USB ハブ)を使用すると本製品が認識できない

USBコントローラに「Intel 82801BA/BAM USB Universal Host Controller または Intel 82801BA/BAM UHCI」を使用しているパソコン(※)では、本製品をUHB-S4に接続しないでください。本製品が認識されない、または正常に動作しないことがあります。このようなときは、本製品をパソコン本体のUSBコネクタに直接取り付けてください。

※USBコントローラの認識方法

WindowsMe/98SE/98: [マイコンピュータ]アイコンを右クリック→[プロパティ(R)]をクリック→[デバイス マネージャ]タブをクリック→[ユニバーサル シリアル バス コントローラ]をダブルクリック→表示された文字列がUSBコントローラです。

WindowsXP: [スタート]をクリック→[マイコンピュータ]を右クリック→[管理(G)]をクリック→[デバイスマネージャ]をクリック→[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]をダブルクリック→表示された文字列がUSBコントローラです。

Windows2000: [マイコンピュータ]アイコンを右クリック→[管理(G)]をクリック→[デバイス マネージャ]をクリック→[USB(Universal Serial Bus)コントローラ]をダブルクリック→表示された文字列がUSBコントローラです。

MacOS Ｘ 10.1 で MO ディスクをマウントできない

MacOS Ｘ 10.1をお使いの場合は、MOフォーマットでFAT32形式にフォーマットしたMOディスクをマウントすることができません。MOフォーマットでフォーマットしたMOディスクをMacOS Ｘ 10.1で使用する場合は、FAT16形式でフォーマットしてください。

動作環境

温度　**5～35℃**

湿度　**20～80%(結露なきこと)**

消費電力

最大　**8W**

※最新の情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ(buffalo.jp)をご参照ください。

MO-C1300U2シリーズユーザーズマニュアル

2003年10月15日 初版発行

発行　　株式会社バッファロー